

大学生の将来の家事や育児への考え方に関する研究

社会福祉学科 臨床福祉系 酒井桃果

本研究では、これからの社会を担う大学生を対象に質問紙調査を行い、将来、家庭を持った時の家事や育児の分担をどのように考えているのか（以下、将来の家庭内役割分担意識）について検証した。まず、家事や育児を好きな程度については、性差はないことが分かった。一方、将来の家庭内役割分担の中でも「料理」に関しては男性群と比較すると女性群のほうが自らの負担割合を高く設定していた。また、将来の家庭内役割分担意識に影響を与える変数についても性差がみられた。単回帰分析の結果、女性群ではジェンダーフリーな考え方が将来の家庭内役割分担意識に影響を与えるのに対し、男性群では家事や育児を好きかどうかの影響していることが分かった。調査対象が限定されており、普遍的な結果として解釈することは難しいものの、一定の示唆を得ることはできたと考えられる。